

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除に伴って来街者や来客数が徐々に回復している。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・前年に収穫されたりんごが大豊作であったことから売上が良い。また、春に収穫された根菜類も好調である。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・北海道や東京などでの緊急事態宣言が解除されてから人流が増えている。旅行客についても、団体グループや修学旅行の学生を見掛ける日が増えてきた。少しずつではあるが、旅行や出張で人が動き始めている。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・緊急事態宣言が発出されたことで、百貨店では、5月から食料品や生活必需品の売場を除き、土日を休業していたため、6月初旬の売上は前年と比べて大きなマイナスとなっていたものの、中旬になり、新型コロナウイルス感染者数が減少し始めたことで来客数が回復してきた。緊急事態宣言が解除された6月21日以降は前年を上回る日が続いており、全体的な売上は回復傾向にある。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの市中感染状況が落ち着きをみせるのに伴って、来客数が増加傾向にあり、買上率も向上している。
	○	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・前年に続き緊急事態宣言が発出された。前年は感染症に対する知識の不足から客の引き籠りが多くみられたが、今年は感染対策が周知されたことやワクチン接種が始まったことから、客の行動が前年と比べて活動的になっている。
	○	スーパー（役員）	お客様の様子	・前年は自粛の夏だったが、今年は夏の催事が通常の状態に戻りつつある。それに伴って総菜などの販売量も回復してきている。
	○	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き始めたことで、夜間の来客数が伸び始めている。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・5月に発出された緊急事態宣言は6月20日で解除されたが、まん延防止等重点措置が継続しているため、ビジネス、観光共に人の動きが抑制された状態が続いている。ただし、前年と比べると、空港利用者数は回復傾向になってきている。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・緊急事態宣言の期間中が底だったため、景気はやや良くなっている。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・緊急事態宣言が発出されたことで、6月20日までは客も外出を控え、夜の街関連の店も休業していた。そのため、タクシーの稼働状況は前年から30%落ち込んだ。ただ、3か月前と比べれば景気はやや良くなっている。
	○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・通信機器の取扱店舗も、大型商業施設などでの出張販売も来客数が増えている。客の購買意欲も高く、来客数の伸び以上に通信契約や販売量が増えている。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・北海道に発出されていた緊急事態宣言が解除されたことで、旅客の輸送量が急激に増加している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・前々月から他市及び道外ナンバーの車両を見掛けるようになってきているものの、ワクチン接種が順調に進んでいないことから、当区域を訪れる地元客の客足は遠のいたままである。緊急事態宣言解除以降の来街者数も少ないまま変わらない。当地の夏祭りが2年続けて中止となったこともあり、地域全体として沈滞ムードが漂っており、現状を打破する有効な方法も見付けられないままである。

□	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・緊急事態宣言発出後も客単価は変わらずに推移している。周りの飲食店の状況もさほど変わらないため、景気は変わっていない。
□	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客がワイシャツなどの必要最低限の商材しか買わない状況となっている。コロナ禍において、何とか節約して乗り切ろうと考える客が多く、財布のひもは固いままである。
□	家電量販店（店員）	来客数の動き	・来客数は前月から横ばいでの推移となっている。前年との比較では9割程度とやや少なくなっているが、テレビやレコーダーなどが多少売れ始めている。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・コロナ禍のなか、大きな打撃を受けている状況に変化はない。販売量の伸びにつながるような変化も見当たらない。
□	自動車備品販売店（店長）	単価の動き	・新型コロナウイルス対策について、政府や自治体も具体的な解決策を見いだせていない状況ではあるが、売上は前年の105%と増加傾向にある。ただ、客単価が高いことが要因であり、来客数は前年比95%と前年を下回って推移している。
□	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・徐々にではあるが、販売量が回復してきている。
□	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・沖縄県以外の緊急事態宣言が解除されたこともあり、少しずつ来客数が増えてきている。ただ、全体的な観光客の入込数はいまだに例年を下回って推移している。今後については、東京オリンピックの開催に伴って、感染者数が再び増加に転じてしまったときに、どうなるのかという不安がある。
□	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除に伴って来客数が回復してきている雰囲気があるが、その効果がまだ数字に表れていないため、景気は変わらない。
□	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置や緊急事態宣言によるダメージが甚大である。予約も入ってきているが、それを上回るキャンセルがみられる状況が続いている。
□	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・6月の3分の2が緊急事態宣言下であったこともあり、新規の予約数が少なかった。道内旅行の申込みもほとんどみられなかった。
□	旅行代理店（従業員）	それ以外	・緊急事態宣言が解除されたことで、少しは良くなるのではないかとみていたが、東京オリンピックの動きが加速していることがマイナスとなっている。景気が良くなっていくような要素が一向に感じられない状況にある。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響による減収が続いている。昼間の外出自粛、夜の飲み会の廃止などが主な要因だが、なかでもビジネス関係の接待、宴会が皆無となっていることの影響が深刻である。緊急事態宣言の解除に伴って観光客に動きがみられるようになってきているが、タクシー需要にはつながっていない。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・日中の人出や客の利用状況に変化はみられない。夜間の人出については、これまで減少傾向にあったものが、少しずつ増えてきているものの、全体的な客の利用状況に大きな変化はみられなかった。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ3か月、来客数はほとんど変わっていない。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・ワクチン接種が大分進んできていることで少しは安心感もみられるようになってきているが、全国的な新型コロナウイルスの感染者数がそれほど減っていないことから、疑心暗鬼になっている客も多く、客の動きもムードも悪くなっている。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・これまで以上に客の予算面での制約が厳しくなっている。中～高額物件よりも、中～低価格物件を志向している客が増えてきている。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、景気がやや下向きと捉えている客が多かった。

▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除され、まん延防止等重点措置に移行したことで、人出が少しずつ戻り始めているものの、購買意欲が低いことから、売上は低迷している。また、時短要請が強いられている飲食店は、酒の提供が夜7時までで制限されているため、商売にならず困惑している。営業再開を諦めた店舗も多い。せめてあと1時間延長してくれるだけでも状況は一変するため、苦境を強いられている飲食店の要望にぜひ応えていただきたい。
▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は前年比64.3%、前々年比6.9%となっている。隣接している自治体の感染者数が高止まりしていることから、当地もゴーストタウンのような状況が続いている。
▲	百貨店（営業販促担当）	来客数の動き	・来客数が回復してこない。緊急事態宣言が解除された6月21日以降もすう勢は余り変わっていない。特に年配客の動きが悪いままである。若い世代の客は徐々に増えてきているが、買上につながらない。
▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・5月16日に緊急事態宣言が発出され、6月20日まで営業時間や営業日などについて制約が生じたことで景気はやや悪くなっている。生活必需品以外のテナントが土日休業となったことで、来客数が大幅に減少したほか、郊外型のショッピングセンターから、小型のスーパーマーケットに客が流れてしまう傾向がみられている。
▲	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言の解除後、販売量は回復してきているが、宣言前の水準までは戻っていない。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響がじわじわと表れ始めている。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・6月は客の動きが悪く、達成率が受注予定台数の60%にとどまり、前年実績を下回る結果となった。
▲	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・客の健康志向の高まりは肌で感じるほどだが、テレビやマスコミなどによる過剰な健康宣伝と購買誘導で客が混乱している。正しい情報ばかりではなく、誘導的な情報も多々みられる。
▲	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・6月21日に緊急事態宣言と営業自粛期間が明けたが、売上は前々年の2割台にとどまりそうで景気は悪い。ただ、宣言解除後は低単価ではあるものの、ランチの売行きが良いなど、明るい材料もみられる。一方、感染再拡大や再度の自粛がいつ生じてもおかしくないため、余り期待しすぎないように淡々と営業していきたい。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中は道内観光客に動きがみられていたものの、その後、まん延防止等重点措置が発出されてからは平日を中心に来客数が激減し、緊急事態宣言が発出された5月中旬以降は週末も来客数が減少するようになった。その状況はいまだに続いている。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置など、人流を強力に抑制する施策が採られていることから、旅行、出張などは引き続き低調に推移している。また、観光需要喚起策も長期間停止しており、万策尽きた状況にある。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・長期間の緊急事態宣言が解除されたものの、まん延防止等重点措置に移行したため、人の流れは停滞したままであり、当社の売上も危機的な状態となっている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・前年から続いているコロナ禍のなか、国内客も地元客も動きが全くみられない。今回の緊急事態宣言は解除されたものの、いまだに人の行動が規制されている雰囲気強いことから、厳しい状況は変わっていない。

	▲	観光名所（従業員）	来客数の動き	・現時点ではまだまん延防止等重点措置の最中であることから、観光施設としては、かなり利用客の少ない状況が続いている。ただ、金曜～土曜などはそれなりに入込があるため、まん延防止等重点措置の解除によってプラスに転じることを期待している。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されたことで来客数が増加しているが、期間中の客の落ち込みが大きかったことから、月全体の売上は通常月に届かないことが見込まれる。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・緊急事態宣言が解除された後も一定数の消費者はそのまま外出を控えているとみられることから、景気はやや悪くなっている。
	×	一般小売店 〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・6月20日まで緊急事態宣言が発出されたため、飲食店で酒類を提供することができなくなった。酒類は当社の主力商材であるため、当社の売上も壊滅的な状況にある。
	×	スーパー（店長）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染拡大により、5月中旬から6月20日まで緊急事態宣言が発出され、当店も土日の休業要請に応じたため、週末の売上が大きく落ち込んだ。
	×	スーパー（従業員）	お客様の様子	・前年の緊急事態宣言期間中は来客数が大幅に減少したものの、巣籠り需要に伴う客単価の伸びがみられたことで、売上は好調であった。今年は前年と同様に来客数が減少しているうえ、客単価も大きく落ち込んでおり、景気が悪くなっている。売上は前々年の水準よりも下回っている状況にある。
	×	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴って緊急事態宣言が発出されたことで、新車購入のための来場が減少している。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が続いているため、営業を行うことができなかった。街中の人通りも余りみられないことから、景気は悪くなっている。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・5月に緊急事態宣言が発出されたことで、人の動きが一段と少なくなってきた。緊急事態宣言期間中は酒類の提供が禁止されたため、夜の人出はほとんどみられなかった。特に繁華街では20時以降はネオンも消え、人が全く歩いていなかった。そのため、タクシーの利用もなく、6月の売上は前年比マイナス30%となった。新型コロナウイルス発生前の前々年と比べると60%のマイナスとなっており、相当厳しい状況にある。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	食品品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・6月の販売量は前年比マイナス46%であったが、3か月前の3月の販売量は前年比マイナス53%であったため、景気はやや良くなっている。
	○	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・農産品は本州向けの荷動きがあるものの、保管量は依然として高い水準で推移している。九州方面を中心に、魚粉も動き始めている。飲料関連は夏の需要に期待しているものの、出足は鈍い。一般消費が拡大してきているようだが、物流にはまだ反映されていない。
	○	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・客の動きは確実に活発になっている。受注量も増加している。景気回復への期待もあり、経済を回す前向きな動きがみられる。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上の前年比をみると、5月は微増であったが、6月は10%近い伸びを示していることから、景気はやや良くなっている。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・緊急事態宣言が解除されてから、設備投資意欲が増している。一方、半導体不足の影響で機械の納期遅れが出てきており、今後に向けて注視が必要となってきた。
	□	食品品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス発生以前と比べて、販売量が15%ほど落ち込んでいる状況が続いている。

	□	建設業（従業員）	取引先の様子	・建設施工者の動向は、前月と変わらず悪いままであった。今年度から来年度に掛けての仕事量の減少が目立ってきているようだ。
	□	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・年度前半の工事量は確保済みであり、各現場では本格的な着工期を迎えている。新型コロナウイルスの直接的な影響は出ていないため、工事進行に併せて出来高が順調に積み上がってきている状況に変わりはない。
	□	輸送業（支店長）	取引先の様子	・道内の新型コロナウイルス感染者数は減少傾向にあるものの、まだ景気回復には向かっていない。
	□	通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・一時期の景況感悪化に伴う値下げ圧力が弱まっている。販売量についても、特段大きな増減がなく、計画値で推移していることから、景況感の変化は感じられない。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・現在の状況は、緊急事態宣言が解除され、集中対策期間が終了し、経済活動の一部の規制が緩和された3か月前に近い状況にあることから、景気は3か月前と変わらない。
	□	司法書士	取引先の様子	・コロナ禍のなか、各業種の自粛が前年から続いていることで、業績を大きく落としたまま回復していない取引先が多くみられる。特に運送業などは倒産こそしていないものの、回復もしていない低空飛行状態が続いている。国の支援も余り期待できないことから、今後の回復も期待できない状況にある。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・現在の主要プロジェクト工事が今後しばらく継続するとみられるため、景気は変わらない。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・最近の物流の動きに変化は余りみられないが、全体的に流通量が鈍くなっている雰囲気がある。
	▲	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きく、景気はやや悪くなっている。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・鋼材、銅、アルミなどの材料費が高騰している。さらに、ウッドショックで新築住宅の着工に悪影響が出てきている。
	▲	司法書士	取引先の様子	・緊急事態宣言、まん延防止等重点措置による規制が長期間に渡っていることで、全ての面で自粛ムードが広がっている。人との接触もままならない状況のなかで、景気が良いと考える人は一握りの人だけである。
	×	*	*	*
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・コロナ禍ではあるものの、求人数は堅調に推移している。特に営業系の求人が目立っており、業績を回復させようという企業の動きがうかがえる。また、派遣で使っていた人材を社員に登用する動きがみられるなど、企業の採用意欲が増していることもうかがえる。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・緊急事態宣言からまん延防止等重点措置に移ったが、飲食店の活気が戻ってこない状況にあるため、求人意欲を上向かせる材料とはならなかった。ただ、3か月前と比べれば景気はやや良くなっている。今後については、感染者数と求人件数が反比例して推移することになる。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・緊急事態宣言の解除を受けて、当地では個人経営の飲食店や中小零細企業の採用マインドが上向いてきている。また、ある大手企業からは、数年先を見越した50名程度の正社員採用の相談も受けている。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・5月の有効求人倍率は1.27倍と前年を0.25ポイント上回り、新規求人数も前年を上回っていることから、景気はやや良くなっている。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・前年は企業側も新卒学生側もコロナ禍での説明会開催や選考に当たったの大きな戸惑いがみられたが、今年は前年の試行錯誤で得られた知見から、上向きに転じている。企業の採用意欲と学生の内定獲得意欲も6月に入ってから上向いてきている。

<input type="checkbox"/>	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・農業関連の一次加工業、二次加工業において、非正規を含めて人材が不足していることから、弱含みながらも求人数に伸びがみられる。
<input type="checkbox"/>	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言からまん延防止等重点措置に移行したことで、経済や消費活動への制限が段階的に減っているものの、目に見えるような変化がまだみられないことから、企業では様子見の状況が続いている。
<input type="checkbox"/>	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・3か月前と大きな変化はみられない。緊急事態宣言が解除され、当地における新型コロナウイルスの感染者もここ数日はほとんど出ていないが、改善にはもう少しばかり時間が掛かるとみられる。
<input type="checkbox"/>	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における5月の有効求人倍率は0.82倍であり、3か月前との比較では0.01ポイントの低下にとどまっていることから、景気は変わっていない。
▲	*	*	*
×	—	—	—